

# アンデス文明の

# 起源を

求めて

# 60年の軌跡と展望 日本人研究

2019年  
3月22日(金)  
18:30~20:45(開場17:30)  
オーバルホール  
大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞社ビルB1階  
定員480名 参加無料  
※要事前申込/先着順 ※手話通訳あり

[東京サテライト会場] [講演をライブ中継でご覧いただけます!](#)

聖心女子大学4号館/  
聖心グローバルプラザ3階  
ブリット記念ホール  
東京都渋谷区広尾4-2-24  
参加無料  
※申込不要/自由入場  
※手話通訳あり



# プログラム

司会：上羽陽子

(国立民族学博物館 准教授)

古代アンデス文明とは、15世紀の前半、スペインの征服によって滅亡するまで、南米の太平洋岸、南北約4000キロもの範囲を影響下に収めたインカ帝国を含む古代文化の総体を指します。今日のペルーとボリビアの一部が文明の中核地域にあたります。

日本人研究者がアンデス文明の成立過程の解明に挑んだのは、今から約60年前の1958年のことでした。戦後草分けの海外学術調査団のひとつとして誕生し、現在もお多くの研究者が調査に携わるなど、世界的に見ても珍しいほど長期間にわたって継続しています。またアンデス文明初期の形成期（紀元前3000年～西暦紀元前後）と呼ばれる時代を対象に、その時代を象徴する神殿の発掘を手がけてきたことで世界的にも知られています。

本公開講演会では、約60年にわたって探究し続けてきた日本人研究者による文明研究の意義、今後進むべき研究の方向性、そして遺跡が存在する地域の人びととの協働の可能性などのテーマをとりあげます。

17:30-18:30  
18:30-18:35  
18:35-18:40  
18:40-19:10  
19:10-19:40  
19:40-19:55  
19:55-20:45

開場

開会 砂間裕之 (毎日新聞社大阪本社 編集局長)

挨拶 吉田憲司 (国立民族学博物館 館長)

講演1 関 雄二 (国立民族学博物館 副館長・教授)

「神殿を握る—文明研究の変貌と展開」

講演2 坂井 正人 (山形大学 教授)

「ナスカの地上絵の研究と保護—山形大学の挑戦」

休憩

パネルディスカッション

「新しい文明研究を目指して」

コメンテーター 中村誠一 (金沢大学 教授)

参加者 関雄二、坂井 正人

進行 卯田宗平 (国立民族学博物館 准教授)

講師・パネリスト



関 雄二 Yuji Seki

国立民族学博物館 副館長・教授

〈プロフィール〉

専門は文化人類学・アンデス考古学。1979年以来、南米ペルー北高地において神殿の発掘調査を行い、アンデス文明の成立過程を追うかたわら、文化遺産の保護と活用にも取り組む。主な著書として『古代アンデス権力の考古学』(06年、京都大学学術出版会)、『アンデスの考古学 改訂版』(10年、同成社)、『アンデスの文化遺産を活かす—考古学者と盗掘者の対話』(14年、臨川書店)がある。

〈講演要旨〉

日本人による南米アンデス地帯の考古学調査は、1958年に開始され、昨年で60年を迎えた。アンデス文明の起源を求めて研究を推進した初期に、世界的な業績をあげたが、その後も、文明観を変える発見や理論構築に貢献してきた。その歴史的な流れと、現在のプロジェクトを紹介し、今後のアンデス研究の行方を展望してみたい。



坂井 正人 Masato Sakai

山形大学・大学院社会文化システム研究科・教授

〈プロフィール〉

山形大学ナスカ研究所副所長。専門は文化人類学・アンデス考古学。近年は世界遺産ナスカ地上絵に関する研究調査に従事している。編著に『ナスカ地上絵の新展開』(08年、山形大学出版会)、『ラテンアメリカ』(07年、朝倉書店)などがある。

〈講演要旨〉

世界遺産「ナスカの地上絵」に関する学際的研究を、山形大学では2004年から実施している。2012年にはナスカ市内に山形大学ナスカ研究所を設立した。これまで山形大学で実施してきた地上絵に関する学術研究を紹介するとともに、現在、ペルー文化省と一緒に取り組んでいる地上絵の保護活動について発表する。



中村 誠一 Seiichi Nakamura

金沢大学・人間社会研究域附属 国際文化資源学研究中心・教授

〈プロフィール〉

中米マヤ文明の世界遺産であるホンジュラスのコパン遺跡やグアテマラのティカル遺跡を中心に、35年にわたり現地での調査研究を指揮している。編著に『コパン考古学プロジェクト (PROARCO) :9L-22,9L-23グループにおける考古学調査 (1)』(金沢大学文化資源学研究 第16号、18年、スペイン語) など。

コメンテーター

## 申込フォームの場合

国立民族学博物館



クリック

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

<http://www.minpaku.ac.jp/>



## 往復はがきの場合

往信の宛名面

返信の文面

返信の宛名面

往信の文面

〒565-8511	吹田 万博公園10番1号
研究協力課	国立民族学博物館

住所・氏名	①郵便番号 ②住所 (返信用宛名面にも) ③年齢(任意) ④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな (本人を含め5名まで) ⑥3月22日 公開講演会
-------	--

往信面に下記①から⑥と返信面に申込者の住所・氏名をご記入のうえご応募ください。 ※申込締切日 3月18日(月) 往復はがき: 消印有効

①郵便番号 ②住所(返信用宛名面にも) ③年齢(任意) ④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め5名まで) ⑥3月22日公開講演会

【宛先】〒565-8511 吹田市千里万博公園10番1号 国立民族学博物館 研究協力課 ※参加申込された方の個人情報は本講演会のみで使用いたします。

◆お問い合わせ先: 国立民族学博物館 研究協力課 TEL: 06-6878-8209 FAX: 06-6878-8479 E-Mail: koenkai@minpaku.ac.jp

## 講演会場



・JR大阪駅(桜橋口)から地下道にて徒歩約8分 ※車でのご来場はご遠慮ください  
・阪神梅田駅・地下鉄西梅田駅から徒歩約8分

サテライト会場の  
地図はコチラ

